

メタモ（東京・港）は学歴や職歴を記録できる「メタモカード」をベトナムで発行する。家事代行やベビースイッターサービスの経験者が就労の実績を自己管理できるようなしして求職・転職を支援する。創業者の佐藤由太社長（32）は「スキルを可視化してムダのない会社をつくりたい」と話す。

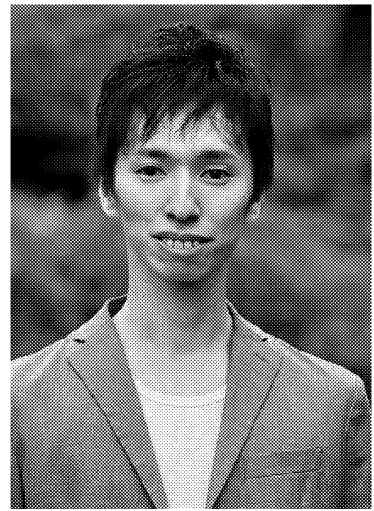
「いつも笑顔で接客できる」「経験が豊富で、手際もいい」。メタモカードのQRコード（2次元バーコード）をスマートフォンのカメラで読み込むと、カードの持ち主の経歴や職場での評価が表示される。

カードには勤務状況などを利用者が細かく記録できる。始業前にスマホの全地球測位システム（GPS）情報を記録すれば、どこでどれだけ働いたかが一目瞭然になる。職場での評価の記入にはIDが必要だ。評価者にIDを付与し、経歴の詐称などを防ぐ。「新しい仕事を探するとき、求職者は自分の職歴の証明になるし、採用側は経歴詐称などのリスクを抑えられる」と佐藤氏。「これまでの経験に関係なく一から研修を受けるような無駄もなくなる」とアピールする。

# 職歴・就労管理 カード1枚

メタモ社長

佐藤 由太氏



さとう・ゆうた 2008年千葉工業大学中退、宇宙航空研究開発機構（JAXA）に入る。人工知能（AI）開発ベンチャーを経て17年3月メタモを設立。

## トップの挑戦

明けて職場のヤブに復帰するため子供をベビースイッターに預けようとしたが、なかなか信頼できる人がいない。紹介されても職歴や経験が分からず、不安が残った。「同じようなことを感じている人が国内外にたくさんいるのでは」。個人の経験やスキルを簡単に確認できる仕組み作りという発想からメタモカードのアイデアが生まれた。佐藤夫妻はかつてAIベンチャーを共に立ち上げた斎藤洋希氏（30、現取締役）を誘い、3人でメタモを起業した。事業開始の地に選んだのはベトナム。広告費など事業コストが低い点に目を付けた。これまで1000人にカードを発行。年内にもホーチミンに新たな拠点を作り、国内での事業拡大へ支援体制を強める計画だ。欧州や米国でも発行を目指し準備を進めている。

## ベトナムで1000人に発行

佐藤氏は大学中退後、宇宙航空研究開発機構（JAXA）で陸域観測技術衛星「だいち2号」が撮影した地球の画像を補正するプログラムを組む仕事に就いた。独立したのは2011年3月。人工知能（AI）ベンチャーを立ち上げた。

その後の目標に定めるのが日本だ。念頭に置くのは大学の学生証で、メタモカードの利用により「履修科目や専攻科目と就職先との相関関係などが分かるようにして提案できるようなしたい」。現在はカードを無料で個人に配布しているが、法人・団体向けの有料化や決済機能の手数料収入による収益化を目指す。

（O）直前までこぎ着けた。ていくためには仕事を生み出す必要がある。しかしIPOを巡って投資会社と対立。16年1月に社長を退いた。約2カ月前に第1子が生まれ、22、現取締役）が産休を始めた。

カードも現在は非接触ICカードに氏名や顔写真を印刷した、いわば簡易版。年内にも米国のパースポートなどの製造会社と組んでセキュリティーを高める新たなカードを開発する計画を立てている。併せて、職歴や学歴などから所有者のスキルを直感で把握できるように、文字ではなくソシオグラム（集団構造の図表）のように表示するウェブサービスも公開する。

AIを使って作ったニュースサイトのコメントシステムは閲覧者が投稿するコメントの内容によってフィルタリングし、批判が集中する「炎上」を防ぐ。経済誌やスポーツ紙のウェブサイトなどに採用されて業績を伸ばし、新規株式公開（IPO



「メタモカード」に記載されたQRコードを読み込むと、職歴や職場での評価、学歴が表示される

海外事業を進める上で課題となるのが資金調達だ。8月から新規仮想通貨000人にカードを発行公開（ICO）を行い、年内にもホーチミンで資金調達を始めたい。集めた資金はセキュリティ対策やウェブサービスの基盤開発に充てる。（矢野慎士）